

日本作物学会講演会 講演要旨 PDF ファイルの作成手順

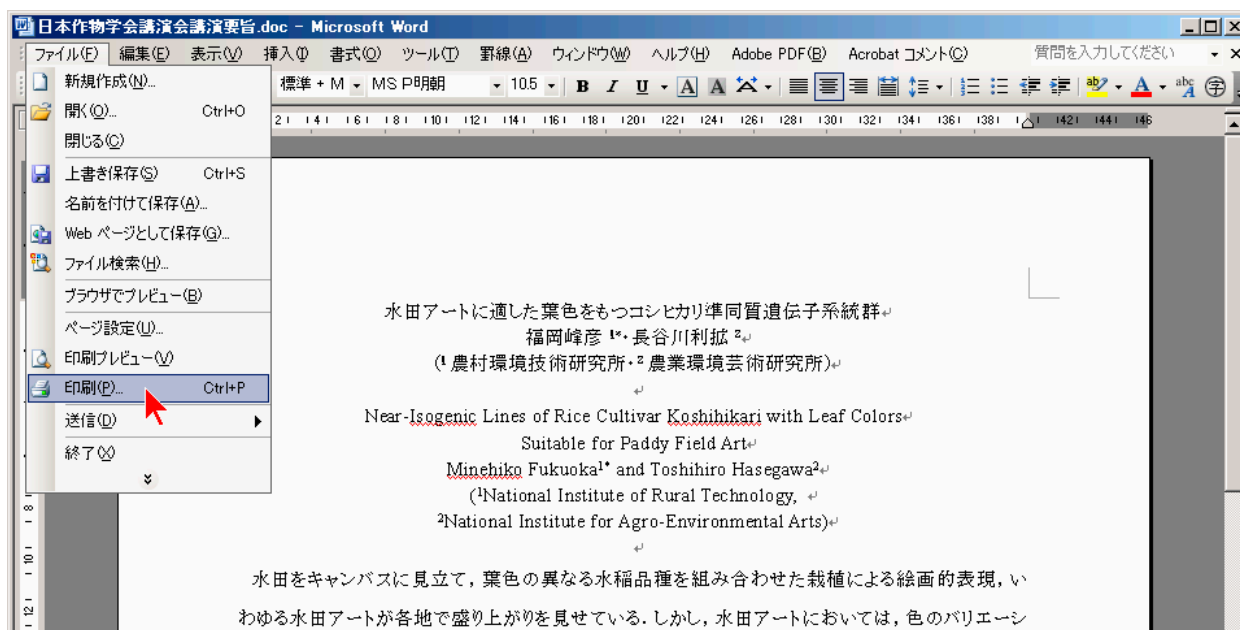
— Microsoft Word で原稿を作成, Primo PDF 2.0 で PDF ファイルに変換 —

本文書では、Microsoft Wordを用いて作成した講演要旨原稿を、無料で使用できるPrimo PDF (<http://www.primopdf.com/>) を用いてPDFファイルに変換する手順を示します。なお、講演要旨集の印刷時や、J-Stageにおけるオンライン公開時のトラブルを避けるため、PDFファイルの作成にあたっては学会が指定する仕様に準拠していただく必要がありますので、下記の手順に従って作成をお願いいたします。

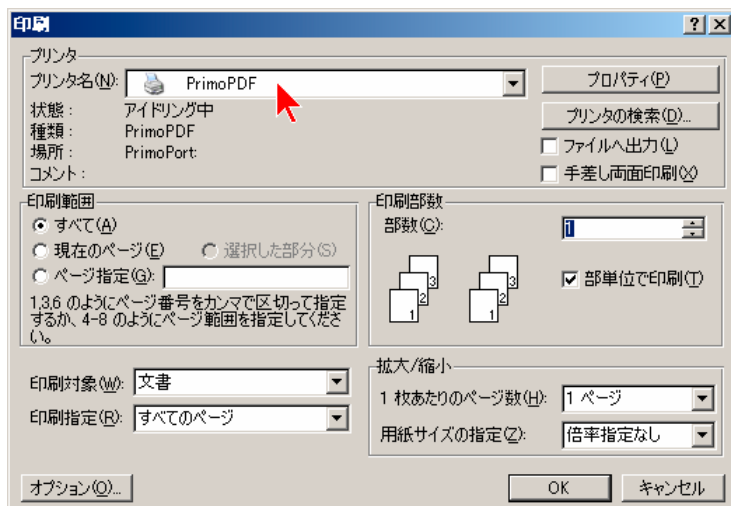
※前提条件：Microsoft Word および Primo PDF 2.0 が適切にインストールされていること。

※下記の例では原稿の作成に Microsoft Word を使用していますが、アプリケーションが備えている印刷機能を経由して PDF ファイルを作成しますので、Word 以外のアプリケーションをお使いの場合でも印刷機能があれば応用できます。その場合はテンプレートがありませんので、余白の設定にご注意下さい。

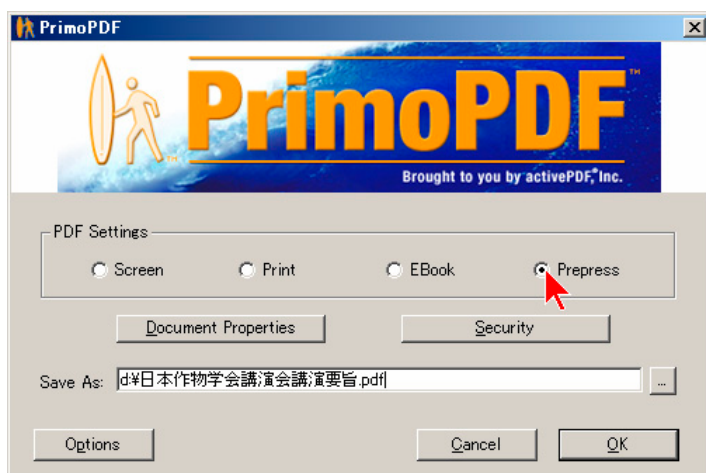
1. 講演会ホームページ (学会ホームページ (<http://wwwsoc.nii.ac.jp/cssj/>) よりリンク) にて公開されているMicrosoft Word用テンプレートファイルをダウンロードします (本文書のPDFファイルにも添付されています)。
2. Word 用テンプレートには適切な余白が予め設定されていますので、これを利用して講演要旨の原稿を作成し、保存しておきます。
3. 「ファイル」メニューから「印刷」を選びます。



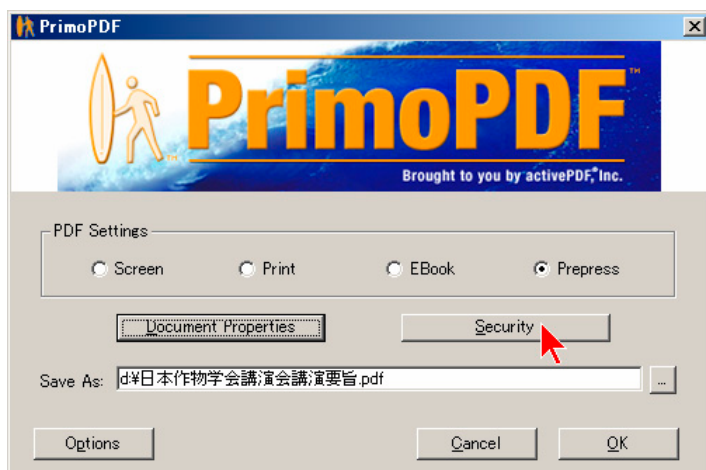
4. 「印刷」ダイアログボックスが表示されますので、その中にある「プリンタ」のうち、「プリンタ名」ドロップダウンボックスから「PrimoPDF」を選び、「OK」ボタンをクリックします。



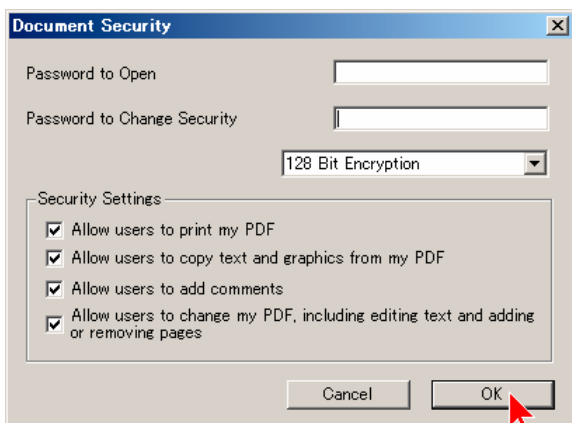
5. 「PrimoPDF」ダイアログボックスが表示されます。その中にある「PDF Settings」のうち、「Prepress」ラジオボタンを選びます。これにより、PDF ファイルへフォントを埋め込むよう設定されます。



6. 同じダイアログボックスの中にある、「Security」ボタンをクリックします。

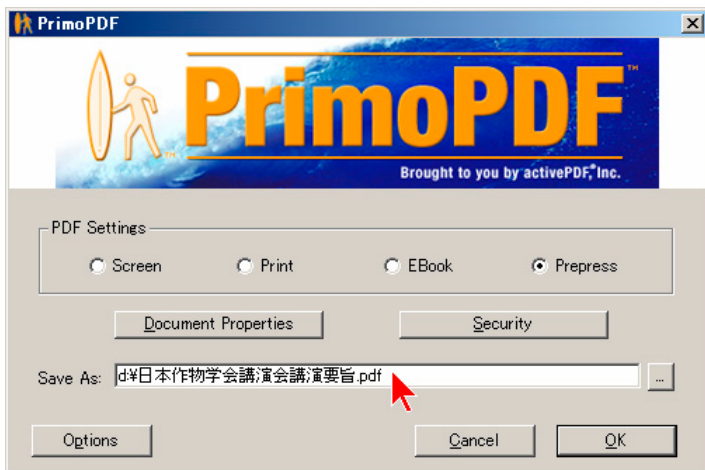


7. 「Document Security」ダイアログボックスが表示されます。「Password to Open」および「Password to Change Security」のチェックボックスがチェックされていない(□)ことと、「Security Settings」の中の4つのチェックボックスが全てチェックされている(☑)ことを確認し、「OK」ボタンをクリックします。



※重要な注意: 講演要旨集の印刷に支障が生じますので、セキュリティ機能を用いた権限の制限は一切行わないで下さい。

8. 再び「PrimoPDF」ダイアログボックスが表示されますので、「Save As:」フィールドに保存先のファイル名を指定し、「OK」ボタンをクリックします。



9. 講演要旨 PDF ファイルが作成されます。原稿作成要領に準拠しているか、また文字や図表が意図した通りに表示されているかを十分確認して下さい。カラー画像を貼り付けた場合は、講演要旨集では白黒に変換して印刷されますので、白黒印刷でも内容の理解に支障がないことを必ず確認して下さい。問題がなければ、講演会ホームページよりアップロードして下さい。

Adobe Acrobat Standard - 日本作物学会講演要旨.pdf

ファイル(F) 編集(E) 表示(V) 文書(O) 注釈(N) ツール(T) アドビスト(A) ウィンドウ(W) ヘルプ(H)

PDF キャンペット 76% ヘルプ

水田アートに適した葉色をもつコシヒカリ準同質遺伝子系統群
福岡峰彦^{1*}・長谷川利雄²
(¹農村環境技術研究所・農業環境芸術研究所)

Near-Isogenic Lines of Rice Cultivar Koshihikari with Leaf Colors
Suitable for Paddy Field Art
Minehiko Fukuoka^{1*} and Toshihiro Hasegawa²
(¹National Institute of Rural Technology,
²National Institute for Agro-Environmental Arts)

水田をキャンパスに見立て、葉色の異なる水稲品種を組み合わせた栽培による絵画的表現、いわゆる水田アートが各地で盛り上がりを見せている。しかし、水田アートにおいては、色のパリエーションを得るために全く異なる品種が混雑されることから、収穫物は混米として扱われ、ほとんど商品価値がない。そのため、一般の農家には導入し難く、村おこしの一発当の域を脱し得ないものであった。また、葉色のパリエーションが緑、黄および紫の3色程度しかないことが色彩表現上の大きな制約となっていた。演者らはこれらの問題を解決するため、基本色であるコシヒカリの緑に加え、赤、青、ほとんど黒に近い紫、ほとんど白に近い斑入りの4葉色をもつ、コシヒカリの準同質遺伝子系統群を作成した。単位面積あたりの基本3原色系統(赤、緑、青)の個体数を調節することにより、デザインングによる中間色の表現が可能となり、ほとんど黒に近い紫と、ほとんど白に近い斑入りを組み合わせることで、遠目にはほぼ全ての色を表現できるようになった。またこれら系統は、葉色が異なるだけで米粒の外観品質や食味はコシヒカリと同一であり、流通過程では同一品種として取り扱うことができることから、混米の問題を解消した。本系統群の登場により、水田アート表現の可能性が色彩面において大きく向上すると期待できる。また、生産～販売のプロセスには何ら悪影響を及ぼさないことから、新幹線沿線のように高い露出が得られる水田では、水田広告により農家に副次的な収入をもたらすことも期待できる。今後、デザインング機能を備えた水田アート対応型田植機の開発が望まれる。

第1図 本系統群を用いた作画例(赤富士、葛飾北斎)。

第2図 本系統群を用いた作画例(神奈川沖 浪裏(富嶽三十六景)、葛飾北斎)。

1 / 2